

復興防災DX研究会（第6回）

日時：令和7年11月6日（木）

10時00分から12時00分

場所：県庁 4-1会議室（4階）

次 第

1 開 会

2 出席者紹介

3 内 容

（1）報 告

「災害時ドローン導入マニュアル（プロトタイプ版）」の更新の方向性について

「いわて防災DX展（仮称）」の開催予定について

（2）議 題

避難者把握システムの実装について

論点①：収集するデータと活用方法について

論点②：導入スキームについて

4 閉 会

復興防災DX研究会（第6回） 出席者名簿

○構成員等

所属	職名	氏名	備考
東北大学 災害科学国際研究所	副研究所長・教授	越村 俊一	欠席
岩手県立大学 防災復興支援センター	准教授	杉安 和也	座長
東北学院大学 情報学部	准教授	高橋 秀幸	副座長
岩手大学 地域防災研究センター	客員准教授	中村 吉雄	欠席
盛岡市 総務部 危機管理防災課	課長	新井田 昌幸	欠席
宮古市 危機管理監 危機管理課	課長	山崎 正幸	オンライン
岩手県社会福祉協議会	事務局次長兼総務部長	斉藤 穰	欠席
いわて NPO 災害支援ネットワーク (認定 NPO 法人フードバンク岩手)	理事 (副理事長・事務局長)	阿部 知幸	オンライン
いわて NPO 災害支援ネットワーク (NPO 法人クチェカ)	会員 (理事・事務局長)	鈴木 悠太	
県 ふるさと振興部 科学情報政策室	DX推進専門官	泉川 憲一郎	

○事務局 (県)

所属	職名	氏名	備考
復興防災部	部長	大畑 光宏	
復興防災部 復興危機管理室	副部長兼復興危機管理室長	北島 太郎	
復興防災部 復興危機管理室	総括危機管理監	石川 一行	
復興防災部 復興危機管理室	主任	福田 晃子	
復興防災部 復興危機管理室	主事	米田 聖程	
復興防災部 復興くらし再建課	被災者生活再建課長	太田 栄時	
復興防災部 復興くらし再建課	主任主査	中嶋 由紀	
復興防災部 復興くらし再建課	主任	鈴木 真耶	
復興防災部 防災課	主事	前田 遥紀	

復興防災DX研究会 会場図

県庁 4-1会議室(4階)

モニター設置
市町村等 Web用

座長
岩手県立大学 防災復興支援センター
副センター長 杉安 和也

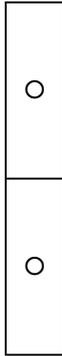


オンライン出席

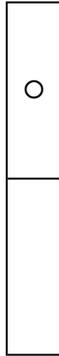
宮古市危機管理監危機管理課
課長 山崎 正幸

いわてNPO災害支援ネットワーク
理事 阿部 知幸

東北学院大学 情報学部
准教授 高橋 秀幸



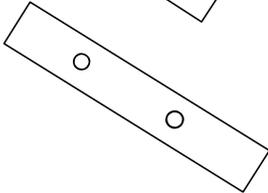
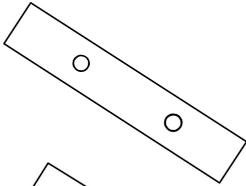
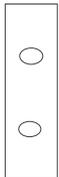
いわてNPO災害支援ネットワーク
会員 鈴木 悠太



岩手県 ふるさと振興部
科学情報政策室
DX推進専門官 泉川 憲一郎



北島 副部長
大畑 部長



米田 主事
福田 主任
石川 総括危機管理監



マスコミ席



入口

第6回岩手県復興防災DX研究会

(1) 報告

「災害時ドローン導入マニュアル（プロトタイプ版）」の更新の方向性について（資料No.1）

「いわて防災DX展（仮称）」の開催予定について（資料No.2）

(2) 議題

避難者把握システムの実装について

論点①：収集するデータと活用方法について（資料No.3）

論点②：導入スキームについて（資料No.4）

参考資料

- ・ 市町村アンケート
- ・ 実証実験の内容と結果
- ・ 令和7年度 防災DXに係る本県の取組について（第5回研究会資料）
- ・ 研究の方向性（第5回研究会資料）

令和7年3月末に公開した「災害時ドローン導入マニュアル（プロトタイプ版）」について、下記のとおり国動向を踏まえ、公開予定

■ 公開時期

国の動向を踏まえ、年度末（3月頃）に県ホームページでの公開を目指す

■ 背景

- 令和7年9月、総務省消防庁は災害情報の伝達手段として、ドローンの活用を自治体に促していく方針を固めた旨、報道。
- 年度内に災害情報伝達のガイドライン（指針）にドローンの項目を設ける予定とのこと。

■ 国の直近の動き

（開催済）

- 令和7年 9月 第1回「災害情報伝達手段としてのドローン活用に関する検討会」※を開催
※防災行政無線等の課題についてドローンによる解決を図る
- 令和7年10月 第2回 同検討会を開催

（開催予定）

- 令和8年 1月 第3回 同検討会を開催予定
- 令和8年 2月 第4回 同検討会を開催予定

（参考）プロトタイプ版 概要

- 対象者：市町村職員
- ページ数：全14ページ（表紙含む）
- 公開日：令和7年3月31日



（参考）更新版 概要

- 対象者：市町村職員
- ページ数：全35ページ程度予定
- 公開日：令和8年3月頃予定

令和7年1月に実施した「いわて防災DXセミナー」に引き続き、令和5年度から3年間実施した復興防災DX研究会の成果の県内波及を目的として、避難者把握システムやドローンの実証成果報告・操作体験、防災DXに関連した講演等を行う「いわて防災DX展（仮称）」の開催を検討中

- ・実施時期：1月下旬の2日間（予定）
- ・実施場所：盛岡市内（予定）
- ・対象：自治体職員、学生等一般の方

参考：昨年度チラシ

いわて防災DXセミナー

Point 1

デジタル庁・県
防災DXの取組説明



Point 2

被災者把握システム
「岩手モデル」体験会



Point 3

災害時のドローン
活用事例の説明会



※詳細の内容（タイムスケジュール）は次ページ

日時	令和7年1月29日（水） 13時30分～16時
場所	いわて県民情報交流センターアイーナ（8F） 会議室803・804B
参加対象者	▶県内外の自治体職員（防災担当者・DX担当者等） ▶NPO法人・社会福祉協議会の職員 ▶防災DXに興味のある学生
定員	100名（参加費無料）

●問い合わせ先
岩手県復興防災部復興危機管理室（鈴木）
電話：019-629-6924・メール：AJ0008@pref.iwate.jp

●タイムスケジュール

時間	内容	発表者・対応者
13:30	開会	-
13:35～14:15	防災DXの取組説明	デジタル庁 国民向けサービスグループ 防災班
14:15～14:55		岩手県復興防災部復興危機管理室
14:55～15:00	休憩	
15:00～16:00	体験会・説明会	株式会社BotExpress（岩手モデル体験会） 岩手県立大学（ドローン説明会）

※岩手モデルの体験に当たっては、スマートフォンを持参の上、LINEアプリが使えるよう事前準備をお願いします。

被災者把握システム「岩手モデル」とは…

主な特徴

- ①避難者把握の迅速化
- ②避難所外被災者の把握
- ③本人同意によるNPO等との情報共有



システムの詳細は「復興防災DX研究会（第4回）」当日資料を参照

お申込みに当たっては、別添の参加申込書を1/22（水）までに提出ください

(1) 報告

「災害時ドローン導入マニュアル（プロトタイプ版）」の更新の方向性について（資料No.1）

「いわて防災DX展（仮称）」の開催予定について（資料No.2）

(2) 議題

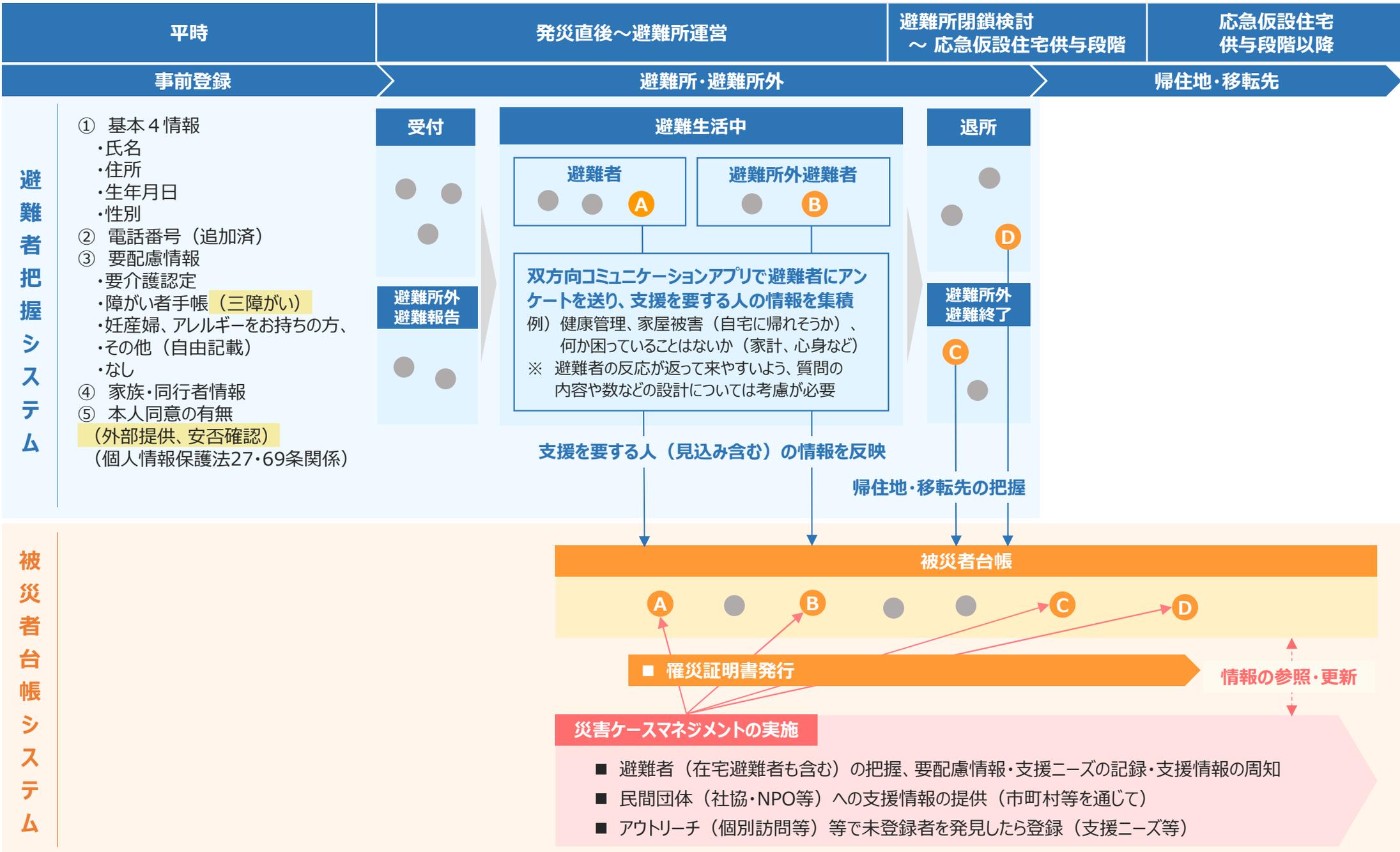
避難者把握システムの実装について

論点①：収集するデータと活用方法について（資料No.3）

論点②：導入スキームについて（資料No.4）

参考資料

- ・ 市町村アンケート
- ・ 実証実験の内容と結果
- ・ 令和7年度 防災DXに係る本県の取組について（第5回研究会資料）
- ・ 研究の方向性（第5回研究会資料）



広域連携型の場合はコストを低く抑えられ、市町村個別型の場合は地域の実情に応じた運用が可能である。

	広域連携型		市町村個別型	
観点	メリット	デメリット	メリット	デメリット
住民目線	<ul style="list-style-type: none"> ■ どの避難所でも同じ画面で操作できる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域ごとの工夫が反映されにくい ■ システムが止まると広域で使えない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の地域のやり方で安心して使える 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 広域避難時に同じシステムを使えない可能性がある
運用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設計・運用・トラブル対応を代表者がまとめて行える ■ 応援職員がどこでも同じ手順で動ける ■ 広域的な情報を収集しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現場の事情に細かく合わせにくい ■ 改善に時間がかかる ■ 障害があると広域で止まるリスク 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の実情に応じて柔軟に運用できる ■ 改善や修正がすぐできる ■ 既存システムともつなげやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市町村ごとにやり方がバラバラになる ■ 他の自治体と情報共有がしづらい（技術的にも簡単に確認できる状態になっていない）
費用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体の費用を大幅に減らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用する自治体間の負担割合の整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要な自治体だけ導入できる（選択制） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体では費用が高つく
拡張・変更	<ul style="list-style-type: none"> ■ 修正すれば、広域全体に反映できる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市町村ごとの設計が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の事情に合わせた機能追加や改善がしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 広域全体でそろえるのが難しく、バラつきが出る

本資料の内容

(1) 報告

「災害時ドローン導入マニュアル（プロトタイプ版）」の更新の方向性について（資料No.1）

「いわて防災DX展（仮称）」の開催予定について（資料No.2）

(2) 議題

避難者把握システムの実装について

論点①：収集するデータと活用方法について（資料No.3）

論点②：導入スキームについて（資料No.4）

参考資料

- ・ 市町村アンケート分析
- ・ 実証実験の内容と結果
- ・ 令和7年度 防災DXに係る本県の取組について（第5回研究会資料）
- ・ 研究の方向性（第5回研究会資料）

【参考】市町村アンケート分析

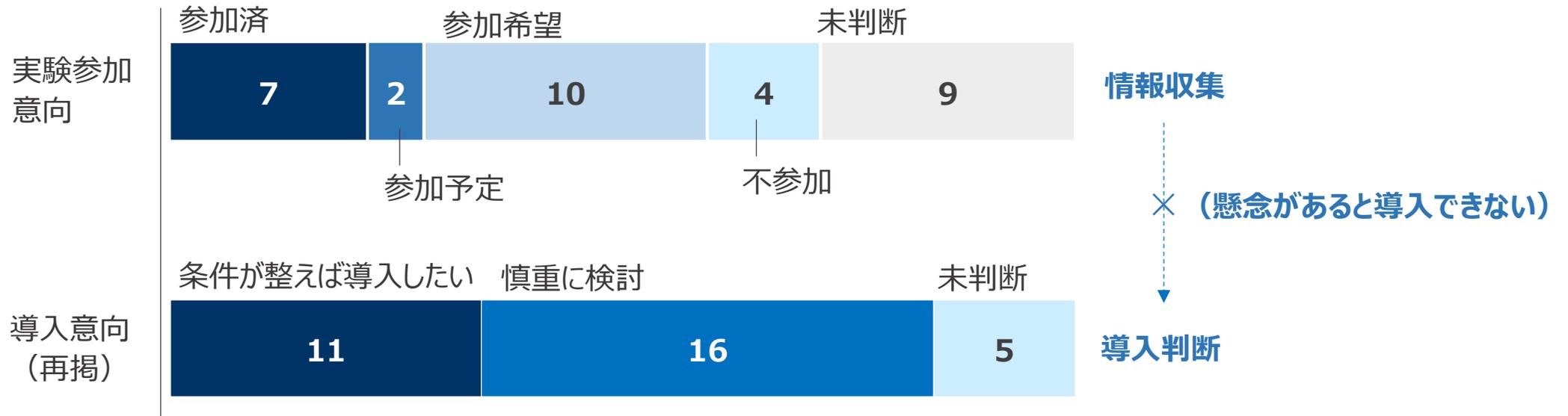
導入希望：市町村の約6割は判断に必要な条件がまだ整っておらず、導入可否の判断に至っていない。



【参考】市町村アンケート分析

実証実験の参加状況：実証参加だけでは、導入の可否は判断できない。

実験参加意向（参加済/予定/希望）は57%。導入判断は、慎重・未判断が64%。



【参考】市町村アンケート分析

導入について判断できない理由は「不確実性」。
導入しやすい成功条件づくりを進めていく必要がある。

運用に対する懸念点



導入を判断しにくい構造

- 1 需要の不確実性（使われないリスク）**
住民が使ってくれるのか、周知・事前登録ができるのか不明確
- 2 供給の制約（体制・スキル不足）**
運用体制、人員、スキルの確保・持続が見通せない
個人情報が守られるのか
- 3 費用対効果の不確実性**
費用に見合う効果・再現性が判断しにくい

「判断できる状態」を整え、共有するフェーズへ

順位	懸念点	趣旨
1位	コスト	導入・運用にお金がかかる
2位	個人情報の保護	漏洩リスクへの不安
3位	住民への周知	住民に使ってもらえるのか不安
3位	維持管理	継続運用できる体制・人について不安
5位	職員不足	災害時の受付オペレーションなどが回るか心配
6位	スキル不足	システムについて分かる人がいない

【参考】市町村アンケート分析

利用するアカウントの意向：市町村の意向は「半々」。選択の違いは、重視する価値の違い。

16

市町村個別アカウント（住民サービス重視）

- 市公式LINEの他の機能との連携などを図りたいため。
- 公式アカウントが広く浸透しているため（登録者数人口比50%程度）
- 市民の利用率が高く、既存の情報発信手段として活用可能のため
- 市独自のアプリを検討中
- 市町村公式アカウントがあるため
- 既被災者台帳システムに連動するなら広域的なアカウントが良い
- 登録者数/人口の比率が大きい方であればどちらでも

● 目的：住民との接点の維持・活用

● 背景：既存アカウントが浸透している

● 重点：住民サービス全体での一体的運用

14

広域一元化アカウント（負担最小化・効率重視）

- 広域で一元管理することが、全体的な負担が最小となると考えるため
- 現状市町村公式アカウントがなく、導入に手間がかかる
- 市のアカウントにシステムを導入する手順がどれくらいなのか分からないため。
- 広域避難者が避難先の市町村毎に避難者情報の登録を行う必要がないのであればどちらでも構わない。
- 広域的な統一システムとしての運用を望むため
- 市町村をまたぐ避難者がいた場合の把握を容易にするため。
- 公式アカウントを所有していない
- 情報共有がスムーズにできると考えられるため

● 目的：運用負担・コストの最小化、

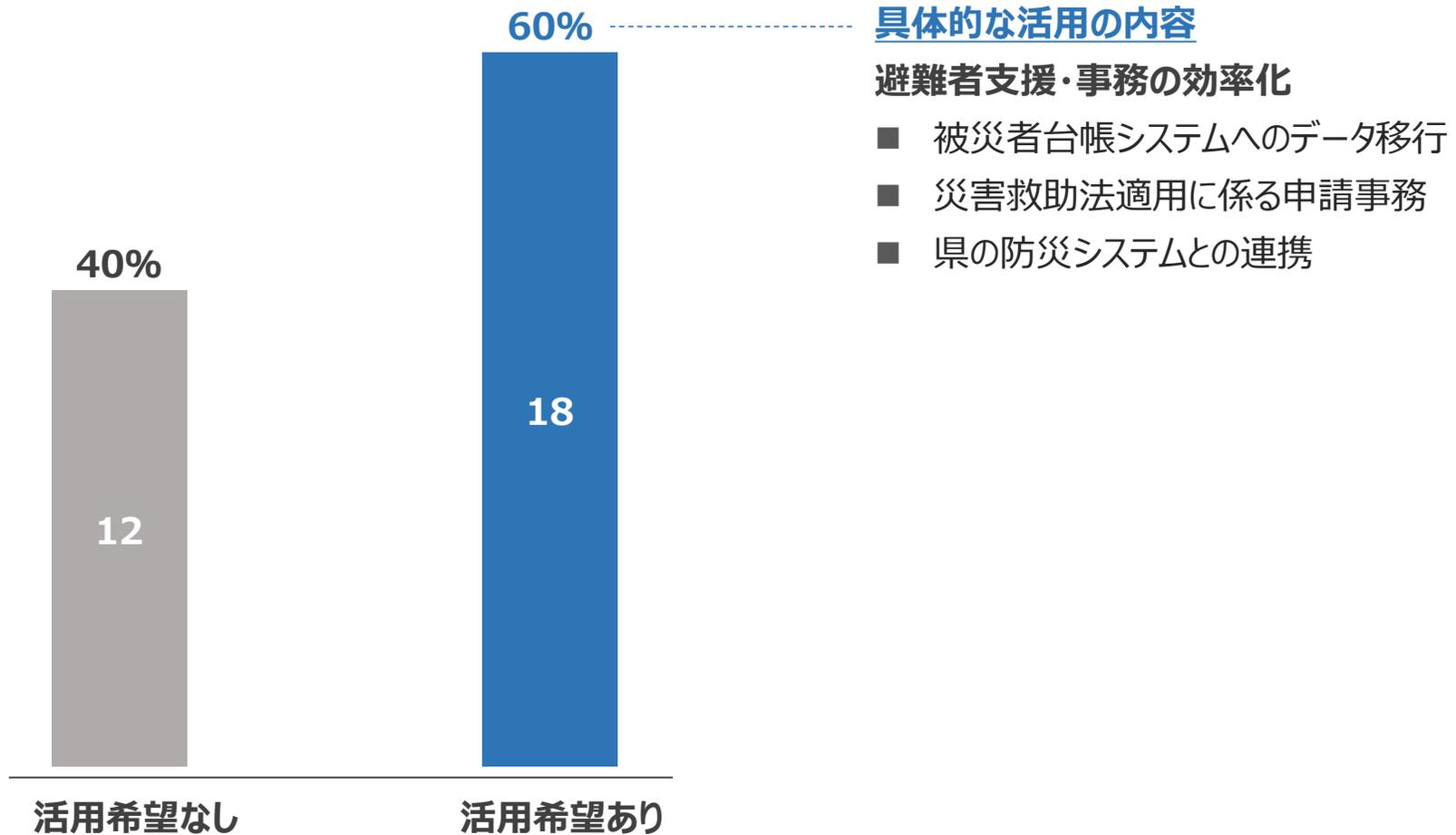
● 複数自治体をまたぐ避難への支援

● 背景：アカウント未保有／人員不足等

● 重点：災害対応の効率化／スピード

【参考】市町村アンケート分析

取得情報の避難所運営以外への利活用：避難者支援に関する活用ニーズがある



【参考】実証実験の内容と結果

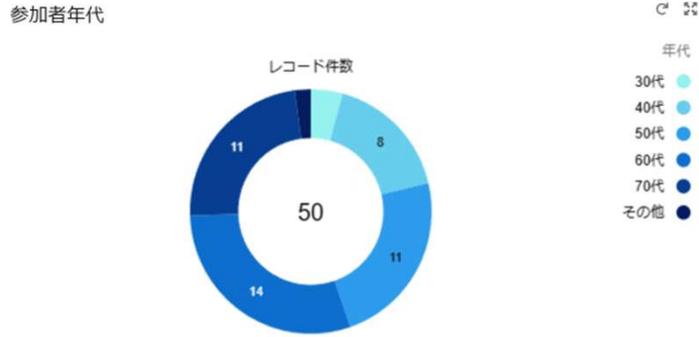
時期	実施市町	内容	実施体制	実施結果
R6.9.18 (火)	久慈市	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル受付（事前登録済） ■ 紙受付 ■ 紙とデジタルの混合受付 ■ 避難所外避難者把握 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受付体制 2人（市） ■ 市対策本部 1人（市） ■ 事務局 2人（市）、7人（県）、4人（県委託先） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者数 34人 ■ 受付時間（受付＋名簿作成orシステムインポート） <ul style="list-style-type: none"> 事前登録 13秒/世帯 紙受付 4分48秒/世帯 混合受付 56秒 （事前登録8秒/紙受付2分18秒）
R6.11.10 (日)	遠野市	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル受付（現地登録） ■ スマホ未所持者の各種受付手法の検証等 ■ 個人情報の提供に係る本人同意の取得 ■ 避難所外避難者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受付体制 2人（市） ■ 運営本部 1人（市）※同本部は避難所内設置 ■ 事務局 5人（県）、3人（県委託先） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者数 60人 ■ 受付時間 <ul style="list-style-type: none"> 事前登録 24秒/世帯 現地登録 5分42秒/世帯 代理登録 2分5秒
R7.6.29 (日)	花巻市	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル受付（事前登録） ■ デジタル受付（代理登録） ■ 2か所の避難所で同時集計 ■ 事前シナリオなし（ブラインド型） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前登録 3人（市）×2か所 ■ 代理登録 1人（市）×2か所 ■ 全体進行 2人（市）×2か所 ■ 運営補助 1人（県）、1人（県委託先）×2か所 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者数 99人 ■ 受付時間 <ul style="list-style-type: none"> 事前登録 12秒/人 代理登録 3分32秒/人
R7.8.30(土)	盛岡市	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル受付（現地登録） ■ デジタル受付（代理登録） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現地登録 3人（市） ■ 代理登録 1人（市） ■ 運営補助 2人（県）、5名（県立大生） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者数 38人 ■ 受付時間 <ul style="list-style-type: none"> 現地登録 5分8秒/人 代理登録 3分36秒/人
R7.8.31 (日)	奥州市	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル受付（現地登録） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現地登録 5人（市） ■ 運営補助 2人（県） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者数 25人 ■ 受付時間 <ul style="list-style-type: none"> 現地登録 13分（全体の受付が完了するまで）
R7.10.5(日)	大船渡市	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル受付（事前登録） ■ デジタル受付（現地登録） ■ デジタル受付（代理登録） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前登録 1人（市）※タブレット1台 ■ 現地登録 4人（市） ■ 代理登録 2人（市）※タブレット2台 ■ 運営補助 2人（県） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者数 <ul style="list-style-type: none"> 事前登録 7名 現地登録 33名 代理登録 13名 ■ 受付時間 <ul style="list-style-type: none"> 事前登録 6秒/人 現地登録 概ね5分程度 代理登録 概ね3～5分程度 ※正確な計測できず

【参考】実証実験の内容と結果

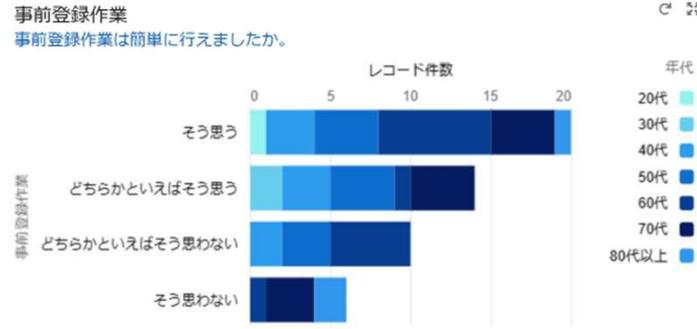
時期	実施市町	内容	実施体制	実施結果
R7.10.26 (土)	二戸市	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル受付（事前登録） ■ 紙受付 ■ 避難所外避難者把握 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前登録 1人（市）※タブレット1台 登録補助 4人（市） ■ 紙受付 2人（市）※途中から3名 ■ 運営補助 2人（県） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者数 事前登録 59人 紙受付 40人 ■ 受付時間 事前登録 10秒/人 紙受付 1分24秒/人 ■ 避難所外避難者把握 参加者 3名
R7.11.8 (土)	釜石市 大槌町	<p>【釜石市・大槌町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル受付（現地登録） ■ デジタル受付（代理登録） ■ 複数市町村で同時に受付・集計結果確認 	<p>【釜石市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現地登録 1人（市） ■ 代理登録 2人（市） ■ 運営補助 3人（県）、1名（県委託先） <p>【大槌町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現地登録 1人（町） ■ 代理登録 1人（町） ■ 住民誘導 1人（町） ■ 運営補助 3人（県）、1名（県委託先） 	

【参考】実証実験の内容と結果（花巻市・事後アンケート）

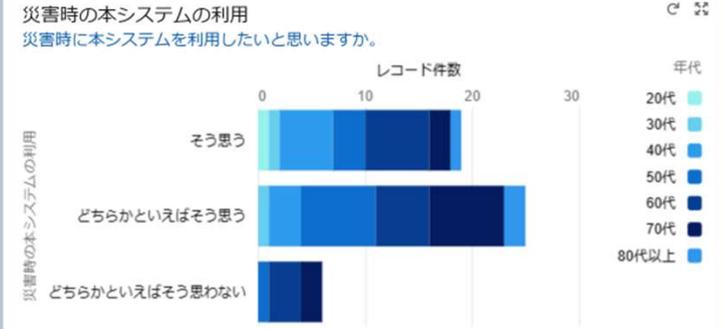
ダッシュボード
事後アンケート（住民・花巻市）
更新日 2025/11/05 10:53 Bot Express Bot Expressとして参照



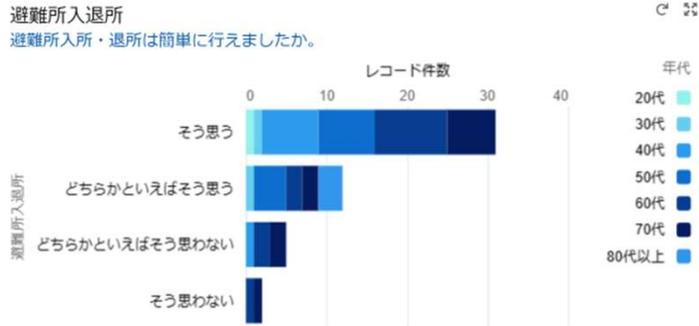
レポートの表示 (事後アンケート (住民・花巻)) 更新日 2025/11/05 10:53



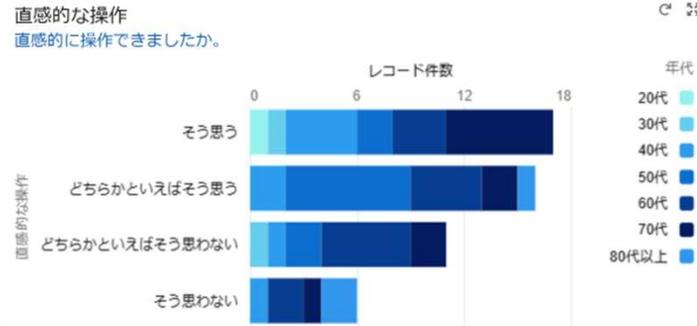
レポートの表示 (事後アンケート (住民・花巻)) 更新日 2025/11/05 10:53



レポートの表示 (事後アンケート (住民・花巻)) 更新日 2025/11/05 10:53



レポートの表示 (事後アンケート (住民・花巻)) 更新日 2025/11/05 10:53



レポートの表示 (事後アンケート (住民・花巻)) 更新日 2025/11/05 10:53

事後アンケート（住民）

年代 ↑	紙受付との比較感想	本アプリ使用理由	改善点	システム改善点
20代	-	-	-	-
30代	-	-	-	-
30代	-	-	-	-
40代	-	-	-	そう思う
40代	-	-	-	-
40代	-	-	-	-
40代	-	有事の際に携帯の電池を節約したいため	操作を簡便にしてほしい 説明がないと登録操作が難しく、時間を要する	登録方法
40代	-	-	-	-
40代	-	便利そうなので。	まだ分からない。	まだ分からない。

【参考】実証実験の内容と結果（花巻市・事後アンケート）

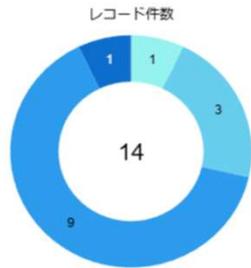
事後アンケート（住民）

年代 ↑	紙受付との比較感想	本アプリ使用理由	改善点	システム改善点
50代	-	-	改善点 操作方法に不慣れなため、本番の時に心配です。 また、充電スポットが足りるか心配です。	-
50代	-	使った事がないから	-	-
50代	-	-	-	-
60代	-	登録しておけば、どこにいても家族全員の状況が確認できる	最初の登録が面倒	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	ラインの文字を大きくしてください!	字の大きくしてください!
60代	-	便利だから	思いつかない	-
60代	-	アンケートを求められた	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	この質問の回答は択一の3つから選ばない場合は、このように記載すればよいの？ 回答方法の説明が無いですね	-	LINEを使いこなしていない人は直感的な操作が出来ないと思います
60代	-	-	-	-
60代	-	どちらかといえばそう思わない	-	-
70代	-	停電時と個人情報管理が少し不安	高齢期の方にはハードルが高い	今のところわからない
70代	-	分からない	分からない	-
70代	-	-	-	-
70代	-	-	-	-
70代	-	-	-	-
70代	-	-	-	-
70代	-	未だよく分からない	読み取り相手の身分表示	もう少し説明が欲しい
80代以上	-	-	-	-
80代以上	-	-	-	-
80代以上	-	-	-	-

【参考】実証実験の内容と結果（奥州市・事後アンケート）

ダッシュボード
事後アンケート（住民・奥州市）
更新日 2025/11/05 10:52 Bot Express Bot Expressとして参照

参加者年代

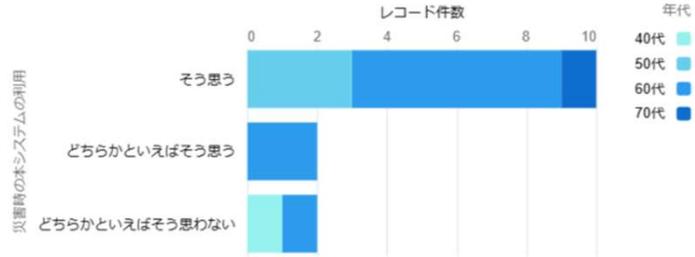


レポートの表示 (事後アンケート (住民・奥州市))

更新日 2025/11/05 10:52

災害時の本システムの利用

災害時に本システムを利用したいと思いますか。

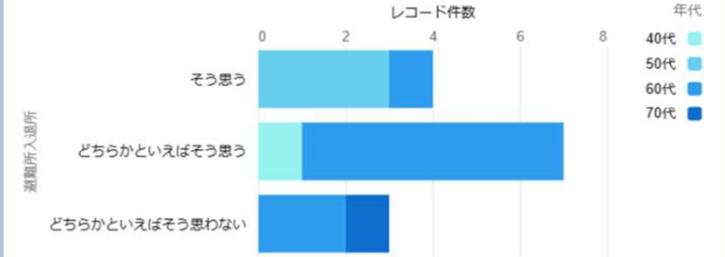


レポートの表示 (事後アンケート (住民・奥州市))

更新日 2025/11/05 10:52

避難所入退所

避難所入所・退所は簡単に行えましたか。

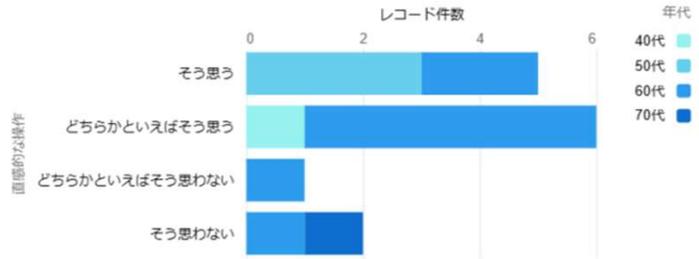


レポートの表示 (事後アンケート (住民・奥州市))

更新日 2025/11/05 10:52

直感的な操作

直感的に操作できましたか。



レポートの表示 (事後アンケート (住民・奥州市))

更新日 2025/11/05 10:52

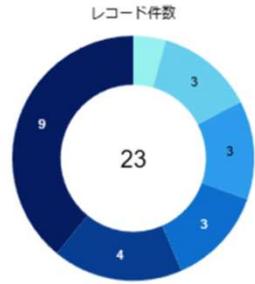
事後アンケート（住民・奥州市） 1

年代	紙受付との比較感想	本アプリ使用理由	改善点	システム改善点
40代	-	電気も止まるんじゃない？ 使える？	-	-
50代	-	-	-	-
50代	-	紙より楽だから	個人情報がか	生年月日の入力
50代	-	書くのが面倒	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	QRコードが避難した時にあるのか心配です。	-
60代	-	今後のために	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	何とか入力できたから	避難者が一時的に増えた時の不具合への対応	性別でLGBTQとかへの対応
60代	-	入りに戸惑う。	このアプリを使うより、マイナンバーカードで読み取り出来る様にすれば良いと思う。	住所、氏名等を事前に登録しておき、選択するだけで登録出来る様に出来ると簡単だと思います。
60代	-	災害時にスピーディーな対応ができると思うから	-	-

【参考】実証実験の内容と結果（大船渡市・事後アンケート）

ダッシュボード
事後アンケート（住民・大船渡市）
更新日 2025/11/05 10:53 Bot Express Bot Expressとして参照

参加者年代

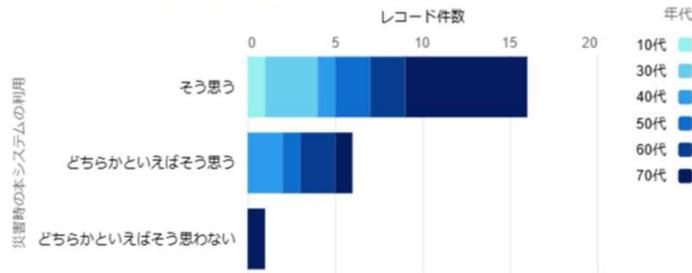


レポートの表示 (事後アンケート (住民・大船渡市))

更新日 2025/11/05 10:53

災害時の本システムの利用

災害時に本システムを利用したいと思いますか。

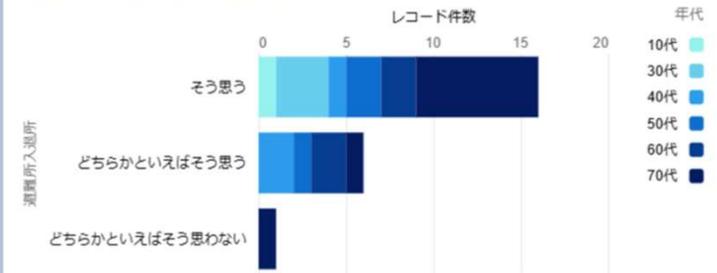


レポートの表示 (事後アンケート (住民・大船渡市))

更新日 2025/11/05 10:53

避難所入退所

避難所入所・退所は簡単に行えましたか。

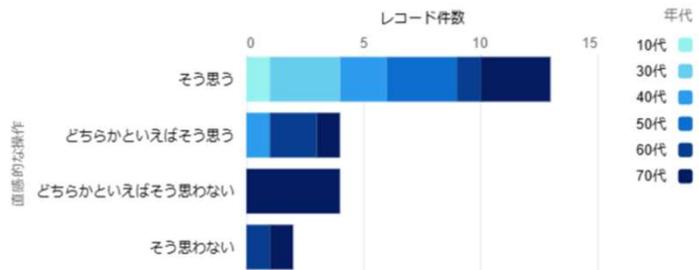


レポートの表示 (事後アンケート (住民・大船渡市))

更新日 2025/11/05 10:53

直感的な操作

直感的に操作できましたか。



レポートの表示 (事後アンケート (住民・大船渡市))

更新日 2025/11/05 10:53

【参考】実証実験の内容と結果（大船渡市・事後アンケート）

事後アンケート（住民・大船渡市）

年代 ↑	紙受付との比較感想	本アプリ使用理由	改善点	システム改善点
10代	-	手間を感じることなく手続きできるから。	-	-
30代	-	-	-	-
30代	-	-	-	-
30代	-	大事だから	-	-
40代	-	-	-	-
40代	-	-	-	-
40代	-	一度登録をしていれば楽だと思う	電波がないとき	年寄りなどLINEの扱いが難しい人にはどうするのか
50代	-	-	-	-
50代	-	[受信設定完了]	-	-
50代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	-	-	-
60代	-	受付が簡単になり、効率化に繋がる為	-	-
70代	-	ラジオやテレビなどない時 情報提供などしてくれる。	-	-
70代	-	そう思ったから	-	-
70代	-	めんどでない	少し分かりにくい	わからない
70代	-	-	-	-

概要

- 防災分野では紙ベースで受付を行っている避難所対応業務など、アナログな仕組みが多く、災害発生時に膨大な事務が発生
- 令和5年度に設置した「復興防災DX研究会」において、本県の災害対応の現状・課題を整理するとともに先行事例調査等を実施
- 研究会での議論を通じて4つの重点課題を設定し、3つの重点課題に対応する事業を実施

現状と課題

紙ベースで受付を行っている避難所対応業務など、防災分野ではアナログな仕組みが多く、災害発生時に膨大な事務が発生

令和5年度から調査研究に着手

復興防災DX研究会の設置

1 現状・課題の整理

市町村調査・ヒアリング等踏まえ、防災分野の課題を以下のとおり整理

人

マンパワー不足、震災から13年以上が経過し、災害経験のない職員の増加

組織

紙ベース等が中心でアナログな仕組みが多い

地域・住民

避難困難な高齢者の増加により、自助、共助が弱体化

環境

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震など、大規模災害の災害リスクが顕在化

2 先行事例の調査

(1) 避難所受付業務の効率化

避難所受付にマイナンバーカードやQRコードを活用した事例

(2) 住民の防災意識の向上

アプリ等を活用した防災訓練のデジタル化、Myタイムラインの作成

取組の方向性

復興防災DX研究会において、次の4項目を重点課題として研究を実施

デジタル技術を活用した
災害対応業務の
効率化・省力化・標準化

デジタル技術を活用した
県民の防災意識の向上

デジタル技術活用の
前提となる人材の育成

現状の技術等に捉われない
将来的な災害対応業務の検討

※必要な取組は研究会等で継続議論

令和7年度の取組

復興防災DX研究会

実証実験等の実施

避難所運営デジタル化実証事業【継続】

- 「マイナンバーカード」や「コミュニケーションアプリ」を活用した避難所受付
- 在宅避難者・車避難者の所在地やニーズを把握
- リアルタイムで把握した避難者数等のデータに基づいた物資供給支援

災害時ドローン導入の促進

- R7.3に公開したマニュアル（プロトタイプ版）を完成版に更新
- ワークショップ等で活用

東北学院大学と連携した取組の実施

東北学院大学と連携し、県民に対する防災意識向上等に係る効果的な取組について、調査研究を実施

ワークショップの開催

市町村職員を対象に、避難者把握システムの実証結果やドローン導入マニュアル等を紹介するワークショップを開催し、県内における社会実装を促進

目指すところ

- 防災情報のデータ化やデータ連携の促進により、災害対応のデジタル化を通じて迅速かつ効果的な災害対応業務を実現
- 災害発生前後に県民が得られる情報の充実・利活用により、適切な避難行動の促進や被災者支援業務を実現

現状課題

- 人** 平時から復旧・復興期のマンパワー不足や東日本大震災津波から14年が経過し災害経験のない職員の増加
- 組織** 紙ベースの対応が中心でアナログな仕組みが多いことや、災害対応業務の標準化が困難であり、ノウハウが不足
- 地域・住民** 避難困難な高齢者等の増加、自主防災組織の活動が低調、避難意識の低下など、自助・共助が弱体化
- 環境** 頻発・激甚化する大雨災害や日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震など、大規模災害の災害リスクが顕在化

デジタル技術を活用した
災害対応業務の
効率化・省力化・標準化

デジタル技術を活用した
県民の
防災意識の向上

デジタル技術活用の
前提となる
人材の育成

現状の技術等に捉われない
将来的な災害
対応業務の検討

3年間で研究すること（今年度が最終年度）

- 災害対応業務に係る課題研究
県内市町村のヒアリング等を通じた課題研究
防災DX官民共創協議会の取組を通じた研究
- 実証実験等の実施による効果検証
市町村のニーズが高く、目指すところの実現に資する取組の
効果検証（例）避難所運営やドローン活用等
- **社会実装に向けた検討**
課題研究や実証実験等を踏まえ、社会実装に向けた
スキーム等を研究

今年度の重点テーマ

長期的な視点で研究すること

- 将来的な災害対応業務の検討
ゼロベース・未来志向による将来の災害対応業務の検討
- 今後求められる技術の提案
課題調査や実証実験等を踏まえ、今後求められる技術等につ
いての調査・研究を行い、防災DX官民共創協議会に提案
- 研究会での議論を踏まえテーマを設定

研究の方向性